

東日本大震災 対策本部情報	14号	2011/03/17 19:30現在
------------------	-----	-----------------------

各地本委員長殿

証言・338D列車乗務員

間一髪で助かった！

「助けて！」と地域住民から助けを求められた

「当日、盛駅を出発し大船渡駅を出てすぐに走行中にガタガタという強い揺れを感じました。運転席から右側のブロック塀が転がるのを見て、これは大きな地震だと感じました。すぐに市の防災からか、大津波警報が聞こえました。指令からも連絡があり、一緒に乗務していた見習い運転士と乗客避難の準備をしました。乗客は20名くらいでした。

国道45号線に誘導したのですが、すでに信号機が停まっていて道路を渡るのも大変な状態でした。その頃には会社の無線も使えない状況になっていて、運行管理センターでは大船渡小学校に避難するようにとのことだったのですが、地元の方が同じくらいの距離なのでもっと高台の中学校のほうが安全だということで、そのアドバイスに従うことを判断しました。

私たちは制服を着ていたため、移動中にも警察官と同じように見られ、津波に混乱している周辺住民に助けを求められました。特にお年寄りは動けなくなっており、放っておけないので、私たち2人はその方々の避難にも手を貸しました。その頃には国道は避難する車でひどい渋滞になっていました。水が2、3メートル先に見える状況になり、津波で車が流れていく様子も見ました。まさに間一髪で助かった！というかんじでした。

避難した中学校には地元の方々含め、200、300人くらいの方が避難していました。後で聞いたのですが、運行管理センターが指定した小学校までは水が来たとのことでした。私たちは翌日まで、避難所にいました。そこへ組合の仲間、青年部が中心になって「行けるところまで行こう」と相当迂回しながら避難所に探しに来てくれました。」

JR東労組 中央本部
以上

